

PHP新書「地震予報」読者の皆様へ

No. 1 7 7 8 長期継続特殊前兆

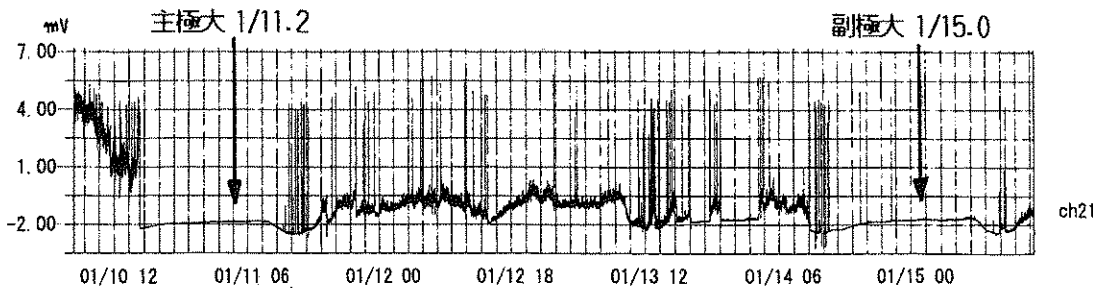
続報 No. 1 2 6

2016. 01/15 (金) 17:30 JST

原稿校了後の前兆変化について

ハヶ岳南麓天文台 Yatsugatake South Base Observatory 山梨県北杜市大泉町谷戸8697-1 研究室 FAX 0551-38-4254
Astronomical Observatory: SINCE 1985 Earthquake Forecast Observation & Research: SINCE 1995

No.1778 長期継続前兆続報 CH 2 1 副極大の可能性観測 1/25±の可能性有



主極大～発生 = T_{map}
主極大～副極大 = T_{ps}
 $T_{map}:T_{ps}=3.7:1$ 経験則

主極大=1/11.2
副極大=1/15.0
 $T_{ps}=3.8$
 $1/11.2+(3.8 \times 3.7)$
=01月25.3日±

長期継続特殊前兆No.1778について
の続報、現況報告です。

前情報で報告のとおり、01月11日
未明～朝にCH21の完全糸状特異が観
測され、第13ステージの極大と認識
されました。

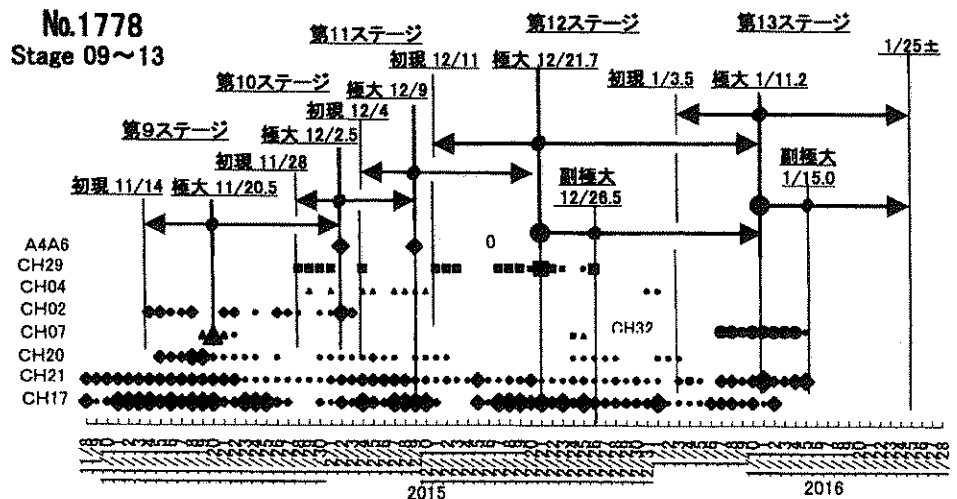
この1/11.2極大に対する初現を、
CH32振動型BFとCH21の特異状態が大
きくなった01月07日の可能性と考え
た場合は、01月18日±の可能性が計
算され、これが正しい場合には、01
月16日に前兆終息が観測され、静
穏期に入ることが観測される筈であ
ることも報告致しました。

また、01月16日に静穏期に入ら
ない場合は、初現認識に誤りがあるこ
とになるため、実際の前兆終息を観
測することが重要であることも報告致しました。

さて、実際は、上波形のとおり（本日1/15 16h30m迄のチ-9）
CH21は、01月14日午前10時頃より再び完全糸状態の特異状態と
なり、本日01月15日午後02時頃まで継続し、現在は完全糸状態
は脱している状況です。

01月11日に続いて再び糸状態となったことから、今回のCH21
糸状特異は副極大の可能性があると考えました。

No.1778 Stage 09～13



浅い地殻地震では、主極大の後、副極大が出現するケースがあり
主極大～副極大の間隔= T_{ps} 主極大～地震発生= T_{map} としたと
き、主極大を示す変動期間が長い場合は、 $T_{map}:T_{ps}=4:1$ 近似
で、逆に副極大が長い場合は $T_{map}:T_{ps}=3:1$ 近似。ほぼ同等の
場合は、平均 $T_{map}:T_{ps}=3.7:1$ と言う経験則が得られています。
今回、1/11.2主極大と1/15.0副極大認識は、ほぼ同等のため、
主副極大認識が正しい場合は、 $T_{ps}=3.8$ 日 $T_{map}:T_{ps}=3.7:1$ 使用
することになります。

この計算で求められる推定時
期は、01月25日±となります。
1/11.2極大で、1/25発生を仮定
しますと、初現は1/3.5±とな
ります。一度静穏化したCH21が、
再び特異状態が出現したした時
期=01月03日と一致します。

現状からは、01月18日発生の
可能性は考え難く、現認識が正
しい場合は、01月21日夕刻～夜
に前兆終息が観測される筈とな
ります。既にCH32は微弱で、現
在はCH21特異が主。01月22日段
階で前兆が完全終息しているか
継続しているか、観測して続報
させて戴きます。

No. 1 7 7 8 前兆推定内容

◆推定領域：右図 大枠推定領域=点線内
可能性考え易い推定領域=太線領域内
特に斜線領域の可能性

◆推定規模：M7.8±0.5

◆推定時期：1月25日（誤差 1/25or26）
（※但し 1月21日夜迄に前兆終息が条件）
（22日時点で前兆継続の場合は再考）

◇推定地震種：震源浅い日本列島陸域地殻地震

◇推定発生時刻：午前9時±1 (or 午後6時±3)

